

(一社) 大学女性協会金沢支部

NEWS LETTER 2013.4.1～2014.3.31

金沢支部総会

日時:平成25年4月28日(日)11:30～15:00

場所:金沢エクセルホテル東急5F

会費:4,000円

出席者:江戸静野 岡田ほなみ 勝木満子 鏑木久美 倉田えれな 米谷数子 柴野南津
杉本和恵 杉盛克子 鈴木恵子 高長美津子 升村登美子 柳生裕子 安原和子
山田多恵子 永原朗子 以上16名 ほかに委任状21名にて総会成立

総会 司会:鏑木久美氏

- ① 議長選出:柳生裕子支部長
- ② 24年度事業報告 鈴木恵子氏
例会記録および写真のコピー配布
 - ★ 3回の研究会についてそれぞれの担当者の報告
 - ★ 昨年度の男女共同参画についてのアンケート調査に関する報告
集計その他本部との共同仕事となっている



- ③ 24年度会計報告 杉盛克子氏
 - ★ 昨年より一般社団法人大学女性協会となったため、一般正味財産が公益目的と
その他活動用に二分され通帳も二つあること等の報告

昼食 12:00～1:00 最年長者 倉田えれな氏の発声にて乾杯

総会(続き)

- ④ 会計監査報告 安原和子氏
- ⑤ 今年度事業計画 鈴木恵子氏
 - ★ 3回の研究会 6, 7月の会は決定(案内を配る)
9月, 11月の会について 活発な意見交換あり。

9月:北前船の航路についての講演

11月:北前船資料館、中谷宇吉郎記念館、九谷美術館等訪問の小旅行

- ⑥ 今年度会計予算 杉盛克子氏
 - ⑦ KJS及びプラティーブ財団への援助について 安原和子氏
 - ★ KJS奨学生 現在11名。プラティーブ財団奨学生 大学生1名。
 - ★ 里親活動について(鏑木久美氏の里子が小学校から大学卒に至った希な例)
 - ⑧ 出席者全員にマイクを廻してそれぞれ近況報告
 - ⑨ 会員に配布する年次活動報告を今後“会報”とする事を支部長より提案、一同拍手して賛同
- 15時散会

以上 山田多恵子記

.....

6月研究会報告

岡能久(おかよしひさ)氏 講演会

漆器とお茶と

日時:6月22日(土)午後1:30~3:30(3時よりティータイム質問など)

場所:金沢市文化ホール3階第5会議室

会費:1,000円(コーヒー・ケーキ付)

講師:岡能久氏 株式会社「能作」(創業安永9年[1780])代表取締役社長

参加者:27名(うち会員10名)

柳生裕子 岡田ほなみ 杉本和恵 杉盛克子 升村登美子 鈴木恵子 勝木満子
鏑木久美子 松宮つね 山田多恵子

特別参加者

平岡珠美 桑原恭子 加藤雅子 柿木益江 大野木法子 高野百合子
基村すみ 吉田泰子 水富圭子 岡田直美 西 一美 吉田美千代 光谷玉子
梶 英子 村松 貞 小松光子 奥出康子

初夏を思わせる暑い日の午後、金沢市文化ホール第5会議室(30席)に28名が出席し、定時より岡能久氏のお話を伺いました。

石川の誇る輪島塗、山中塗、金沢漆器はそれぞれ約490年、約440年、約380年の歴史があり、加賀藩が発足してまもなくの三代藩主前田利常、五代藩主前田綱紀により、京から五十嵐道甫、江戸から清水九兵衛が招聘され、やがてその指導のもと多くの職人が育ち、見事な漆器が制作されるようになり全国に有名になったこと、現在も8月20日には真成寺で道甫忌が営まれているなどが語られました。

はじめは藩主家の求めに応じての茶道具、手回り品、雛道具等が主だったものが時代の変遷に

つれ旦那衆、また漆器専門店主の注文に応じて制作されるようになり、現代では企画から仕上げまで独力で行う漆器作家も多くなりました。

岡氏は過去の漆器制作の技術が失われつつあることを嘆き、いくつかの名品を復元しておられます。時の流れが異常に早くなった今、一般の漆器への愛情、興味も少なくなりつつあるのは悲しい、と、ご持参の美しい漆器の数々を展示されつつ語られ、それらを拝見しながら会員一同優雅な午後を過ごしました。

(文化ホールが満室で隣室でも会議があり、マイクを使えず残念でした)

山田多恵子 記



.....
9 月研究会報告

テーマ:「昆布の道と北前船」

日時:9 月 28 日(土) 午後 1:30～3:30

場所:金沢市文化ホール 3階 第3会議室

講師:古畑 徹 金沢大学人間社会研究域歴史言語文化学系教授

会費:1,000円(コーヒー・ケーキ付)

参加者:26名(うち会員17名)

江戸 静野、大倉 丸美、大坪 純子、岡田 ほなみ、勝木 満子、鏑木 久美、北野 みさを、斉藤 敏子、塩谷 マクスダ、柴野 南津、杉本 和恵、杉盛 克子、鈴木 恵子、高長 美津子、田中 富喜子、寺前 ミツ、久井 茉莉子、升村 登美子、松井 滯子、松身 郁子、松本 明子、柳生 裕子、安原 和子、安原 武彦、山田 多恵子、山村 福子

今回の研究会では、秋に予定されている加賀市への研修旅行で北前船の里資料館を訪問することが企画されていることから、北前船に関連したテーマで、金沢大学教授の古畑徹氏にお話を

伺うことになりました。昆布が北前船によって運ばれたルート「昆布の道」をめぐって、渤海史を中心とする東アジアの国際交流史・国際関係史が専門の古畑教授から非常に興味深い講義を聴くことができました。地域によって特色のある昆布料理の話など、誰もが身近に感じられる話題も盛り込まれて、知的な刺激に富んだ内容でした。お話の中に密田家が出てきたときには、3年前に101歳でお亡くなりになった金沢支部会員の密田静子さんとの関係について関心を持たれた会員も多かったと思います。後で安原さんに調べていただいたところ、やはり繋がりがあって、資料にあった密田林蔵の長女の孫娘とのことでした。

休憩時には、研究会の直前に小樽や秋田の北前船関連施設をめぐる旅をしてこられた安原さんご夫妻から昆布の羊羹と飴のお土産が振舞われ、新しい発見と出会いに満ちた旅の報告がありました。

質疑応答の最後に、今日の講師の笑顔が素敵だったとの感想がでたほど、和やかな雰囲気の研究會となりました。

岡田ほなみ 記



.....

11月研究会の報告

九谷焼美術館、北前船の里資料館、北前船船主屋敷「蔵六園」を訪ねて

日時:平成25年11月8日 10:00頃 ~ 16:00頃

参加者: 勝木満子、武田栄子、柳生裕子、鈴木恵子、江戸静野、炭谷協子、高長美津子、
大坪純子(友人) 以上8名

会費: 入館料 1,200円程度 交通費 500円 昼食実費

今回の研究会は、11月8日、午前10時30分より加賀市の県立九谷焼美術館を見学し、昼食は割烹まついで薬膳料理を頂き、午後は橋立の北前船の里資料館、蔵六園を巡りました。そして帰りにもう一度九谷焼美術館に戻り、2階のカフェで現代作家の作品に注がれたコーヒーや抹茶を頂きな

がら、意見交換を行いました。

「九谷焼美術館」では美しい見事な作品が数多く展示されていて、顔料や 絵付けのあれこれ、窯元のお話など、1つ1つの作品についてガイドさんに丁寧な解説をして頂き、九谷焼きの魅力を再発見しました。また、九谷焼のお宝が個人宅でまだまだ沢山保管されているとの事で、北前船との繋がりの深い大聖寺藩から続くこの地の文化的な豊かさを、この九谷焼美術館の充実した館内展示と共に実感しました。

昼食は「割烹まつい」で、一品一品にこだわりのある薬膳料理を頂き、その後橋立に向かいました。

「北前船の里資料館」は元北前船の船主、酒谷長平が5年の歳月をかけて明治9年に建てたお屋敷です。玄関を上がるとすぐに8寸角のケヤキの柱、大きな松の梁、継ぎ目のない1枚の秋田 杉で造られた板戸が特徴的な「オエ」と呼ばれる30帖の広間があり、館内やお庭に点在するお蔵には、航海の無事を祈願して奉納された北前船を描いた絵馬を始めとした沢山の資料が展示してあり、ガイドさんにそれぞれ 説明して頂きました。中には今にも波に呑み込まれそうな船を描いた絵馬もあり、大きな儲けと隣り合わせの危険な旅の様子が窺い知れました。

蔵六園は資料館から徒歩5分、同じく元北前船の船主の建てたお屋敷です。凝ったつくりの建築で、お殿様のお成りの為に造られたお座敷からの庭の眺めは格別でした。

今はひっそりとした佇まいの両家の並ぶ町並みでしたが、北前船の栄えた頃にはさぞかし賑わっていた事でしょう。明治に入って鉄道や通信の発達などによって北前船は衰退したようですが、その膨大な富の名残が様々なカタチで息づいている事を実感しました。

今回の参加者は8名と少人数でしたが、とても充実した研究会になりました。

高長 美津子 記



.....

平成26年新年会報告



日時:平成 26 年 2 月 9 日(日)

参加者:(18名)江戸 静野、勝木 満子、鏑木 久美、倉田 えれな、塩谷 マクスダ、柴野 南津、

杉本 和恵、杉盛 克子、鈴木 恵子、高長 美津子、升村登美子、松田安佐子、

松宮 つね、柳生 裕子、山田多恵子、山村 福子、大倉 丸美、小間井ヤーナ (ロシア)

会費:4, 000円

2月9日(日)は傘を持たずに歩ける、積雪もほとんどない日和になりました。」
そのせいか、出席通知を下された方が、全員出てきてくださり大変うれしく思いました。
講師を含めて、19名の会合となりました。

柳生支部長のあいさつから会が始まりました。小松市の勝木さんは小松の優秀な青年に送られる勝木賞の由来を話されました。又、加賀市出身のきり金作家で人間国宝の西出大三の展覧会のお知らせもなさいました。

出席者の中で最高齢者だと思われる、山村様の乾杯の音頭で食事が始まりました。日ごろ、忙しさにかまけて、食事を簡単に済ませている私には、中華料理はおいしく感じられました。

食事の後、石川県国際交流員のポロディッチ・エフゲーニさんのお話が始まりました。自己紹介から自分でなさいました。大阪大学に留学した後、再度日本に来たくて、応募して石川県に来る事になったそうです。石川県で五年目になるようで、そろそろ次の仕事を考えなければと話していました。出身地のクラスノヤルスク市はイルクーツクのずっと北西にあり、人口120万でシベリア第3の都市だそうです。ロシアで一番長い(3500Km)

エニセイ川沿いにあります。川幅も広いそうです。1628年にコサックの隊長が作った街で、街の名前は赤い土と言う意味だそうです。教会が街のシンボルになっています。盆地の中にある町で雪は少ないですが、冬はマイナス40度にもなります。四季もあり、夏は20度くらいになります。スポーツは、ロッククライミング、アイスホッケー、ラグビー、レスリングなどを楽しめます。アイススケートは半年間、できるそうです。産業は金属加工、建設機械、造船業などが盛んです。大きな水力発電所もあります。家族ごとに畑を持っていて農作物を作っているそうです。主食はパンやジャガイモです。大学は6割以上が女性で、働く女性も日本より多いそうです。男女給料の差が少ないそうです。日本からはハバロフスクや、北京経由で行けます。

今回はもう一人、ロシアの人を迎えました。初々しい小間井ヤーナさんで昨年6月から金沢に来ています。リファーレで日本語を学んでいます。ウラジオストック出身で、その町の説明もしてくださいました。塩谷マクスーダとも話しが合いそうでした。ひと時の間遠いシベリアの地に思いを馳せることができました。今回も柳生支部長さんをはじめ、皆さんの助けを借りて、無事、会を終える事ができました。感謝です。

松田安佐子 記

